

青ヶ島のはなし

家具新聞社

菊池 昇

先ずは地震と火山のはなし

気象庁は5月6日午後3時4分ごろ、東京の八丈島東方沖を震源とするマグニチュード6.0の地震があったと発表した。震源の深さはごく浅いところで、多少の潮位の変化が程度で津波の被害の心配はないということ、まずは安心ということなのだろう。

噴火警戒レベル

東京には21の活火山があるという。数でも驚きだが、全国ではどのくらいあるかというと、気象庁の発表では111カ所があり、その2割が東京に存在することになる。これも驚きだ。火山はすべて島しょ地域に存在している。そのうち住民が居住している火山島は8カ所で、大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島が該当する。記憶に新しいのが平成12年に噴火した三宅島で、約4年半全島民が島外避難した。31年前には大島が噴火している。

伊豆諸島で火山が噴火した際の防災対策を話し合う東京都の協議会が5月8日に開催された。伊豆・小笠原諸島にある火山で噴火が起きた際の避難計画などについて検討する会議で、新たに八丈島と青ヶ島に「噴火警戒レベル」を導入することが決まった。もちろん2日前の地震とは無関係であろうが、兆候を観測していたのかと憶測してしまう。

千葉県沖合で「スロースリップ」

6月16日午前、千葉県では震度4の揺れが起きるなど地震が相次いでいる。千葉県の沖合では、岩盤の境目がゆっくりとずれ動く「スロースリップ」と呼ばれる現象が起きていると気象庁は発表した。地震と火山、因果関係があるのかどうか判断はつかない。地中のことゆえ、たぶんどこかで繋がっているのかもしれない。

6月18日朝、大阪北部を震源とする震度6弱の地震が発生した。犠牲者も出た。お悔やみを申し上げたい。地震大国とはいえ、怪しいと思うのはほくだけだろうか。

教育長 一般公募

災害の予報は格段に向上したとはいえ、いつ起こるか分からない。心構えなどの備えはしておきたいものだ。

章を改めます。もとより火山の話ではない。

20年近く前に教育長職を一般から募集したことを記憶しているでしょうか。地方分権一括法が1999年に成立し2000年に施行された。地方分権改革が進行していくなか、2000年半ばから2004年10月までの

およそ4年間に全国で14人の公募教育長が誕生している。一般人が経験のない教育長という要職について。公募した自治体は15カ所、議会が不同意したため任命されなかったのは東京都国立市だった。任命された人物の経歴をみると、国立大教授、公立小中学校校長など学校経験者が多い。なかなかの経歴の持ち主といえよう。

ところで東京都で公募した自治体に国立市のほか1か所あった。青ヶ島村である。ほくも応募したひとりである。端から見れば無謀というほかない。決して面白半分に応募したわけではないが、教育行政に熱意を持っていたわけではないので、募集自治体にとっては迷惑だったと思う。

応募時の課題論文は「青ヶ島でできること」だったと思う。作成した内容はかなり前のことゆえ記憶に残っていない。

候補者は7人

青ヶ島は東京の南358キロメートル、八丈島から68キロメートルの洋上、伊豆諸島最南端に位置する。南北に3.5キロメートル、東西に2.5キロメートルの小さな島で人口は2017年現在168人、日本で一番人口の少ない自治体である。2002年当時の人口は200人。交通手段は連絡船とヘリコプター。連絡船のおがしま丸やゆり丸は悪天候による欠航が多く、ヘリコプターの「東京愛らんどシャトル」の定員は9人のため訪れる人は少ない。

2001年の年末、クリスマス賑やかなしり時分に、自宅の電話が鳴った。

「弊村の教育長公募にご応募いただきありがとうございます。一次書類選考の結果が出ましたのでお知らせいたします。応募者は173人でした。その中から7人の方が一次選考を通過いたしました」

一次選考に受かり、村で最終選考の面接試験を行うという連絡だった。

「お父さん、教育長に受かったら青ヶ島に行くの。ほくたちは？」

そのころほくは47歳、離婚して3人の子どもと生活していた。上の2人は高校3年生、下の子は中学2年。毎日の洗濯、食事、学校のある日は弁当を作って持たせる生活だった。不安になるのも当然だ。もし受かった場合、どのようにするか考えてもいかなかったと思う。まさに場当たりの人生だ。

年明けの最初の土曜日曜だったと思う。八丈島までは自費、それ以後のヘリコプターと宿泊の費用は村が負担した。八丈島空港には村の職員が迎えに2人来ていた。1人は八丈島の出張所の駐在者、もう1人は村役場の総務担当者。

「ヘリコプターは定員が9人なんです。役場の人が2人で残り7人。ということで最終選考者を7人に絞らせていただきました」

「(おや、納得できたような、そうでないような理由だ。なんと大雑把な)」思っても口に出せなかった。

近代的な校舎で面接

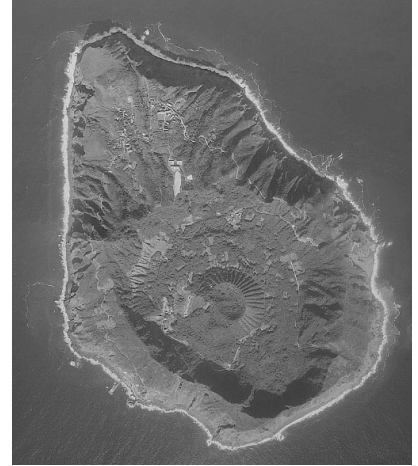
島の行事は学校の校舎を使うことが多い。面接会場は小中学校の視聴覚教室で実施された。3階建ての校舎は1997年に新しく落成した。高度情報通信が完備したコンピューター室や海を眺望しながら食べる給食室など、贅沢過ぎると批判の声もあったという。多目的ホールで歓迎の太鼓が鳴ったのには驚いた。先生の指導で子どもたちが大小3つの太鼓を打ち込んでくれた。ここで育つ子どもたちはどのよう

な夢を持っているのだろう。2002年の児童数は16人、生徒7人。現在はというと2016年で、児童5人、生徒が8人。小学低学年が皆無で数年すると中学生だけになってしまう。島も例外なく少子化高年齢化だ。島に高校はなく、中学校を卒業すると、本土の高校の寮に住んで通う。

5人の面接官に一人ひとりが呼ばれ最終選考が実施された。どのような質問があったか記憶にない。覚えてるのは「今の生活と違って、島では時間が有り余り過ぎるくらいあります。何をしておすごしますか」と訊かれたことだ。これには答えに窮してしまった。「余計なお世話です」と答えようとして呑み込んだ。人口の少ない島の中では、干渉されるのは当たり前なのだろう。

面接が終わると役場の車で島内を案内してくれた。

住所は島内全域が「東京都青ヶ島村無番地」で郵便の配達などは名前のみで判断される。苗字は「菊池」「広江」「佐々木」「奥山」の4種が大半を占める。現在の村長は「菊池利光」さん。2002年に実施した教育長選考委員長で、以後村長を務められている。それまでは「菊池」「佐々木」姓が交互に村長を務めていたようだ。



青ヶ島全景

青ヶ島は鬼ヶ島 三宝港

島全体はカルデラなので、お碗型の形をしている。港に出るには「青宝トンネル」を抜けて行く。トンネルを出ると港に降りる坂道がひらける。港は波が荒い。防波堤が無く、栈橋も短いため、船を係留しておくことができない。島の物資を運ぶ定期船が就航しているが、荒波のため停泊できずに引き返すこともたびたびあるらしい。島の船は中腹にある船の格納庫にケーブルで引き揚げて置くのだそうだ。眺めてみると童話の絵本にある鬼ヶ島そっくり。



三宝港

蒸し風呂に入浴

池之沢地区では、島言葉で「ひんぎゃ」と呼ばれる水蒸気の噴出する穴が無数に見られる。「ひんぎゃ」の語源は火の際(ヒノキワ)が訛ったもの。この地熱を利用して、黒潮本流から汲みだした海水から作った「ひんぎゃの塩」はまるやかでとても美味しい。卵を「ひんぎゃ」で蒸してこの塩を付けて食べるとたまらない。寿命が延びるようだ。



青ヶ島カルデラ

「ふれあいサウナ」は「ひんぎゃ」の地熱を利用して蒸し風呂にしたもの。大変結構なサウナで汗を流してのビールは格別だった。竹下内閣の時の「ふるさと創生一億円事業」で建てたとのこと。

青酎で泥酔

村長が経営する民宿に宿泊することになった。村から特産の「青酎」が振る舞われた。フルーツの香りする癖のある焼酎。島には為朝伝説があり米で作る焼酎を伝えたという。候補者7人のうち5人が男性で、同部屋の5人で青酎を飲むうちクラクラになった。お互い自己紹介をしたり、酔ううちに希望や悩みを話したり、賑やかにすごしたのも酔いを手伝った。

満天の星

民宿のおばさんに外に出て酔いを醒ましてくれることを告げると、道の無いところは歩かないように注意された。滑り落ち海に落ちる人がいるという。確かにカルデラの内側は問題ないが、外側は危険極まりない。

星がとても綺麗だ。ヘリポートで空を仰ぐ。近くに見える星はまるで手が届きそうな感じだ。夕日も素晴らしいと聞いた。こんな自然に囲まれて心豊かに育ち、悪い人はいないと実感した。



青ヶ島内輪山

帰路に

翌日、村長以下、村のたくさんの人が見送りに出てくれた。ヘリコプターに搭乗する前に村長は、なぜかほくだけに握手を求めてきた。「(あれれれ)」不自然では無いようにほくも握り返した。

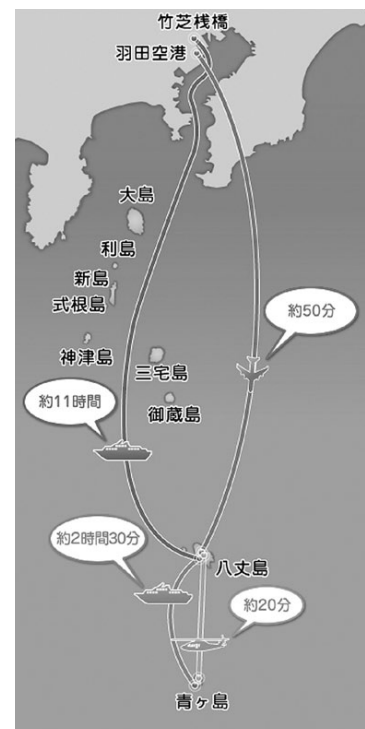
みんなの手を振る姿に応えながらヘリコプターは離陸し、平常は真っ直ぐ向かうのだがサービスといって島を1周した。

八丈島空港の喫煙室で、2人のうちの女性の候補者1人がそばに寄ってきて話した。

「みなさんとても凄い方ばかりで、圧倒されどおしでした。わたしなんて、なんか場違いのところに來てしまったみたい」

ほくよりも10歳くらい若いこの女性が教育長に任命されたIさん。青ヶ島に3年勤め2006年自民党・武部幹事長に見いだされ、小泉チルドレンとなり話題になった。

だったら村長のあの握手はなんだったんだろう。姓が同じだったからだろうか。謎は残ったままだ。ともあれ謎のような「東京都青ヶ島村」。夏の旅に良いのではないだろうか。



航路